

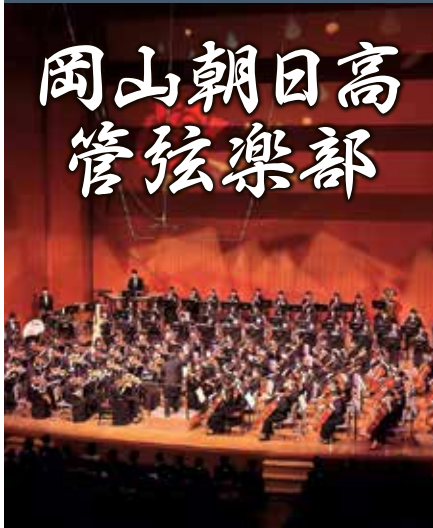
特集：部活動の歴史

終戦直後の部活動は混乱もあったが勢いがあり、それぞれが理想を掲げて活動に燃えていた。創部 100 年を迎える伝統ある部もあれば、その時代には隆盛を誇っていたものの、すでに休部、廃部に至ったものもある。とくに文化部は、時代を敏感に反映し、同好会を含めてさ

まざまな部が生まれ、また消えて行った。現在、実質的に活動している部活動は、運動部が 15、文化部が 18、同好会が 4 で、応援団は休眠状態にある。また、入部率は非常に高く 106% である（実入部率は 81%）。学区再編に対応して取り組んだ部活動活性化が成果を上げ

14 頁にあるように多くの部が中国大会や全国大会に出場、平成 23 年（2011）には囲碁将棋部女子が団体で全国制覇を成し遂げた。生徒たちにとって中国大会・全国大会はすでに縁遠いものではなくなっている。

こうした長年にわたる朝日高校の部活動の歴史の中でも、特筆に値するのが「岡山朝日高校管弦楽部」と言えるだろう。団員 100 人以上、実在校生の 8 人に 1 人が所属しているというこの部にスポットを当てた。



現在 100 人を超える部員を擁する岡山朝日高校管弦楽部は 1962 年に 5 人の男子生徒によって誕生したブラスアンサンブルが母体となっている。ブラスアンサンブルは 2 年後に吹奏楽部に昇格し、1967 年吹奏楽コンクール岡山県予選、岡山県高等学校吹奏楽部連盟の発表演奏会に初参加。2002 年まで参加を重ねて数々の受賞歴を残している。

2001 年に現在顧問の一人で音楽監督をしておられる松北高行先生が本校に赴任され、吹奏楽部を弦楽合奏部と

合体、現在の管弦楽部となる。2003 年には三木記念ホールにおいて第 1 回の定期演奏会を開いている。

2004 年に初参加した全国高等学校選抜オーケストラフェスタでは、これまで 12 年連続で選拔され、団体表彰受賞の快挙も成し遂げている。また第 2 回定期演奏会以降は会場を岡山シンフォニーホールに移して外部からゲスト演奏家を招き、「春うららの音楽会」として開催を続けている。ちなみに今年のゲスト奏者は世界的なトランペット奏者アンドレ・アンリ氏だった。

With a Smile



松北 高行 先生

岡山朝日高管弦楽部をここまで率いてきた松北高行先生は、大学で指揮を学ばれ前任校でも吹奏楽部を指導されてきた方だ。その松北先生にお話を伺った。

～部員指導で大切にしている理念は～

まずは生徒の自主性を重んじています。部員一人ひとりが責任を持って練習を行い、仲間や友人との関係も学んでいくので、私は見守るだけです。

～新入部員への指導は～

ここ数年で管打楽器は、経験者の割合が増えてきましたが、弦楽器は、ほとんど全員が初心者です。どの楽器

も基本を大切に、各パートリーダーを中心に先輩が熱心に指導しています。新入生は当面楽器に慣れ、楽しむことが大切です。音楽のメッセージ性と自己表現の手段としての魅力を体感してもらう時期と考えます。

～普段の練習は～

日頃の練習は朝 7 時 40 分から 8 時 10 分まで。水曜日と日曜日は休みです。放課後は午後 6 時までで、集中できる時間を効果的に使います。

～演奏会前の取り組みは～

定期演奏会でのクラシックの選曲はその年の生徒の様子に合わせて私が行います。ポップスやジャズなどそれ以外の曲は部員が挙手で決めています。

最近の定期演奏会には、わが校の取り組みに賛同して下さる演奏者をゲストとしてお迎えして、1 か月ほど前と前日に 1 回ずつ一緒に練習しています。部員にとってはソリストのオーラと力量に接することで、成長のきっかけになる素晴らしい機会です。

～生徒に伝えたい思いは～

私が恩師からいただいた言葉ですが、「中途半端は零と同じ」の気持ちで努力を続けてほしいと思います。さらに「With a Smile」と「めざせ！世界一のユースオーケストラ」を合言葉にして、くじけず前向きに生きる事の大切さを学んでもらいたい。感受性豊かな 3 年間で身に付けた「他者への思いやり」や「感謝」は、卒業後も永く心に残るでしょう。その心で音楽を続けてもらいたいと願っています。

